



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

平成29年9月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	54,727,456 万円	100.0%	102.2% (101.7%)	52,946,218 万円	100.4% (99.8%)
食 料 品	46,716,744 万円	85.4% (85.0%)	102.2% (101.6%)	45,419,682 万円	100.6% (99.9%)
農 産	7,171,747 万円	13.1% (12.7%)	99.6% (99.6%)	6,978,216 万円	98.1% (97.9%)
水 産	4,160,974 万円	7.6% (7.8%)	98.7% (101.0%)	4,043,240 万円	97.1% (99.0%)
畜 産	5,857,867 万円	10.7% (10.3%)	106.2% (104.8%)	5,681,535 万円	104.3% (102.7%)
惣 菜	5,423,362 万円	9.9% (10.5%)	101.6% (102.3%)	5,258,358 万円	99.7% (100.3%)
日配食品	10,715,566 万円	19.6% (18.9%)	102.3% (101.3%)	10,420,606 万円	100.8% (99.8%)
加工食品	13,387,227 万円	24.5% (24.8%)	103.3% (101.5%)	13,037,727 万円	101.8% (100.0%)
生活関連	3,525,755 万円	6.4% (6.6%)	101.9% (101.7%)	3,442,194 万円	101.0% (100.6%)
衣 料 品	1,465,242 万円	2.7% (2.6%)	99.6% (99.3%)	1,402,981 万円	98.7% (97.9%)
そ の 他	3,019,715 万円	5.5% (5.8%)	103.1% (104.1%)	2,681,361 万円	97.6% (97.9%)

② 数 値

全店総売上高	54,727,456 万円	店 舗 数	4,702 店舗
総売場面積	9,417,783.4 m ²	総従業員数	247,523 人

店舗平均月商	11,639.2 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,839.2 円 (100.0%)
月間m ² 売上(前月)	5.8 万円 (6.3 万円)	平均店舗面積	2,002.9 m ²
月間坪売上(前月)	19.2 万円 (20.7 万円)	パート比率(前月)	77.9% (78.2%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 9月の天候環境について、平均気温は沖縄・奄美でかなり高かった一方、西日本では低く、北・東日本では平年並みだった。日照時間は、北日本と東日本日本海側ではかなり多かった一方、西日本では少なかった。
降水量は、中旬の台風18号の影響により沖縄・奄美と西日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった
- ・ 生鮮品の相場状況について、野菜は前月から引き続き土物・根菜が相場安のため、売上にマイナスの影響を与えた。果実は旬の「ぶどう」の相場が高く、「かき」や「りんご」、その他「バナナ」や「パイナップル」など輸入果実の相場が低かった。
水産物においては、旬の「さんま」や「さけ」、その他「するめいか」や「まぐろ」が不漁や入荷減の影響により、鮮魚全体の売上を苦しめた。
畜産物では、国産の豚肉と鶏むね肉の高値傾向が続いているものの、魚離れによる畜産の好調が続いている
- ・ 前年と比べ、土曜日が1日多く木曜日が1日少ない曜日廻りだったが、祝日の「秋分の日」が土曜日に重なる曜日廻りであった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 「ほうれんそう」や「ブロッコリー」は値ごろ感があり販売点数が伸びたため好調、「トマト」も売上が好調であった、
- ・ 平均気温が前年を下回る地域が多く、「はくさい」や「菌茸類」などの鍋野菜が好調であった
- ・ 「にんじん」「じゃがいも」「たまねぎ」の他、「だいこん」も売上が不調であった
- ・ 旬の「なし」や「ぶどう」は好不調が分かれ、「かき」や「りんご」の売上は不調であった
- ・ 簡便ニーズの高まりにより、「カット野菜」や「カットフルーツ」の好調が続いている

○ 水産

- ・ 旬の「さんま」や「秋鮭」は不漁のため不調、売上前年比で6～7割とのコメントも見られた
- ・ 平均気温が前年を下回る地域が多く、鍋や煮付け用途の「切身」が好調であった
- ・ 鮮魚全般が不調であった一方、「うなぎ」や「塩干物」が好調であった

○ 畜産

- ・ 平均気温が前年を下回る地域が多く、「牛うす切り」や「豚バラうす切り」「豚ロースしゃぶしゃぶ用」、「鶏もも切身」などの鍋商材が好調であった
- ・ 牛肉は「ステーキ」「焼肉」での訴求が多く、好調であった

○ 惣菜

- ・ O-157報道の影響により、ポテトサラダや冷惣菜が不調であったとのコメントが多く見られた
- ・ 「牡蠣」を使用した惣菜は米飯・フライともに好調であったが、「さんま」を使用した惣菜は不調であったとのコメントが見られた

○ 日配・加工食品

- ・ TV放映の影響や健康志向の高まりにより、「納豆」が好調であった
- ・ 平均気温が前年を下回る地域が多く、日配品においては、「おでん」や「練り物」、「こんにゃく」や「中華まん」などのホット商材が好調であった一方、「アイス」や「チルド飲料」が不調であった
- ・ 加工食品においても同様に、「鍋つゆ」や「みそ・味噌汁」、「シチュー」や「スープ」、「コーヒー・紅茶」などのホット商材が好調であった一方、「飲料」や「ビール」は不調であった
- ・ 新米の価格がやや高かったため、「米」の売上は好調であったとのコメントが多く見られた

○ 秋の彼岸の動向について

- ・ お彼岸期間中は天候に恵まれなかったが、中日が土曜日だったため、実績は概ね好調であった
- ・ 「おはぎ」や「天ぷら盛合せ」は好不調が分かれた
- ・ 惣菜の「おはぎ」は好調、和菓子の「おはぎ」が不調とのコメントが多く見られた

○ ハロウィン関連商品の動向について

- ・ ハロウィンの展開は前倒し傾向、9月初旬からの取り組みが多く、実績は好調であった
- ・ 「ハロウィン菓子」では、小分けできる大袋商品が好調であった
- ・ 「かぼちゃ」や「菓子」の取り組みだけではなく、洋食メニュー提案を行うコメントが多く見られた

以上